産業廃棄物処理実績報告書 作成の手引 (処分業用)

八王子市内において昨年度、**産業廃棄物の処分をしていない場合**、「第1号様式その1」又は「第2号様式その1」の「市内における処理実績」欄の「なし」を丸で囲み、「第1号様式その1」又は「第2号様式その1」のみを提出してください。

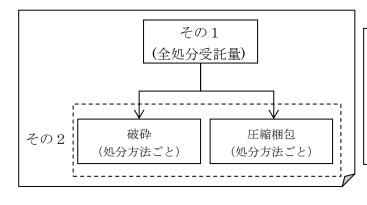
八王子市のホームページから、報告様式(Excel 形式)が入手できます。

http://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/gomi/haikibutu/sangyohaikibutusyorigyou/002/p002515.html

1 様式の種類及び作成枚数

許可の種類ごとに様式が異なります。

		産業廃棄物処分業	特別管理産業廃棄物処分業
様式の種類		第1号様式 その1 " その2	第2号様式 その1 " その2
作成	その1	1枚(全処分受託量)	1枚(全処分受託量)
枚数	その2	1枚(処分方法ごと)	1枚(処分方法ごと)



(例)

破砕⇒廃プラスチック類と金属くず 圧縮梱包⇒廃プラスチック類 上記2種類の許可(処分実績)がある場合

> その1 · · · 1枚 その2 · · · 2枚

2 提出・問合せ先等

- ① 提出は、郵送又は持参でお願いします。
- ② 提出部数は各1部です。必ずコピーを保管してください。
- ③ 郵送の場合、封筒に「実績報告書在中」と朱書きでご記入ください。控えは返却いたしません。
- ② 窓口に報告書2部を持参した場合は、その場で受付印を押印した報告書1部を返却します。

問合せ先

電話 042-620-7541

8:30~12:00及び13:00~17:00(土日祝祭日を除く)

提出先

八王子市資源循環部廃棄物対策課

〒192-8501 東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号

3 集計委託について

八王子市では、本報告書の内容確認等について委託を行っています。後日、八王子市の委託業者から報告内容についてお問合せをすることがありますので、あらかじめ御了承ください。

4 調査担当部署

〒192-8501 東京都八王子市元本郷町三丁目24番1号 八王子市 資源循環部 廃棄物対策課

5 報告の対象となる実績

許可の種類	報告の対象	期間	
産業廃棄物処分業	八王子市内の中間処理施設、最終処	昨年度4月1日~	
特別管理産業廃棄物処分業	分場での処理実績	昨年度3月31日	

6 作成時の注意点

1,777					
	混合廃棄物	マニフェストで複数の産業廃棄物の種類欄にチェックがある場合は、7ページ			
		表-2の組成割合を用いて換算してください。			
廃棄物の種類	廃 OA 機器	マニフェストで複数の産業廃棄物の種類欄にチェックがある場合、重量比で			
残さ物の種類		廃棄物の種類ごとにあん分してください。この際、年間の取扱量を通じて求め			
		られる平均的な比率であん分しても構いません。			
	残さ物の種類は、産業廃棄物の種類で記入してください。				
発生地別内訳、	都道府県ごとに集計し、「発生地別内訳」は廃棄物の種類ごとに、「残さ物の処分先につい				
残さ物の処分先	て」は廃棄物の種類ごと、処分方法コードごとに合計を記入してください。				
	処分後、有価	物として売却した場合でも残さ量に含みます。「第1号様式その 2」または「第2			
処分後売却分	号様式その2」の、「残さ物の処分先について」欄に記入し、「処分方法コード」①と記入してく				
	ださい。(5ペ	ージ⑥参照)			
	「t」(トン)単位で記入してください。(小数点第6位まで記入し、第7位は四捨五入)				
*** (光/4)	マニフェストに他の単位(m³等)で記入している場合は、「t」に換算してください。				
数量(単位)	(7ページ表-1の換算係数参照)				
	※混合廃棄物	の記入方法については、7ページを参照してください。			

7 作成の手順

産業廃棄物管理票(マニフェスト) C1票を用意する。



前年度に処分を終了し、搬出していない保管量の合計を「その2前年度末の保管量」へ記入する。

(一昨年度)



C1票を処分方法ごとに分ける。



種類別・発生地の都道府県別に合計し、「その2処分量の発生地別内訳」へ 記入する。



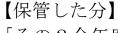
処分後、年度内に搬出した分と、保管した分に分ける。





【搬出した分】

種類別・処分方法コード別・搬出先 都道府県別に合計し、「その2発生 した残さ物の処分先について」へ記 入する。

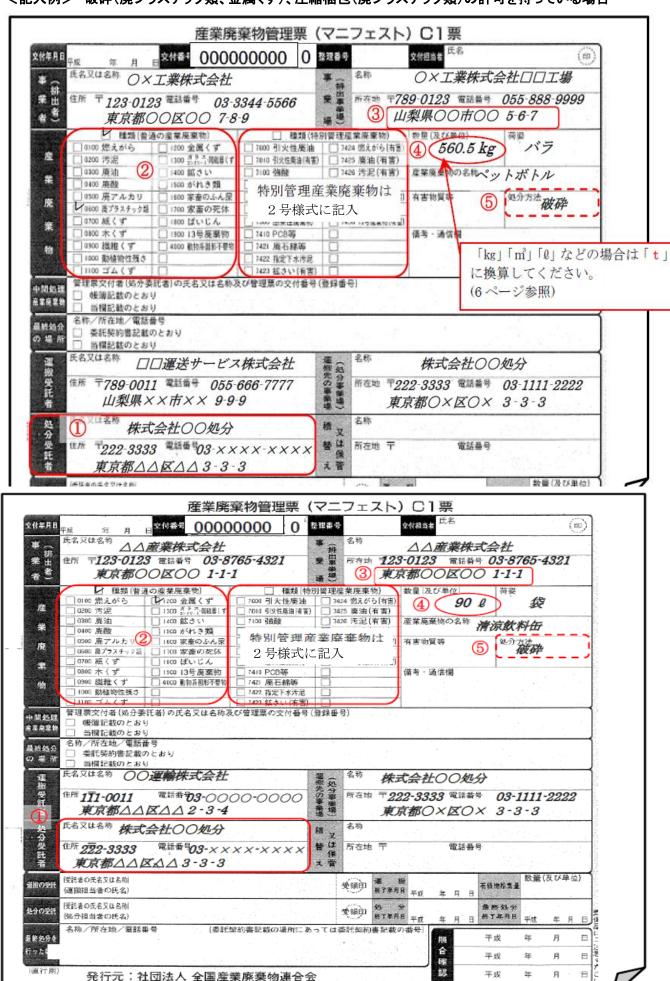


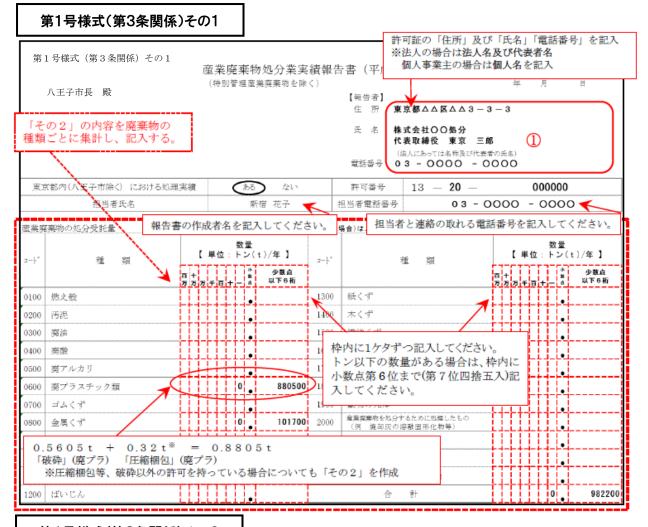
「その2今年度末の保管量」へ合計 記入する。(一昨年度)



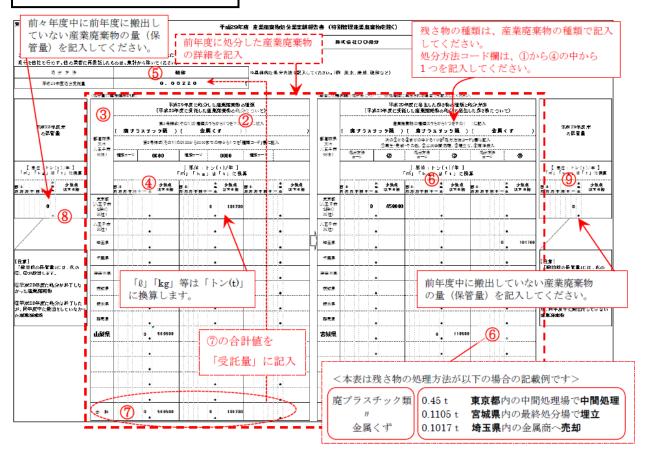
「その2全処分量」を種類ごとに合計し、「その1」へ転記する。

<記入例> 破砕(廃プラスチック類、金属くず)、圧縮梱包(廃プラスチック類)の許可を持っている場合





第1号様式(第3条関係)その2



- 8 Q&A
- Q1 廃業したのですが、報告が必要ですか。
- A1 昨年度4月1日から昨年度3月31日までの間に有効な許可を持っていた場合は、報告が必要です。報告の対象期間に処分実績がない場合は「実績なし」で報告してください。
- Q2 住所変更(社名変更)したのですが、どのように記載すればよいですか。
- A2 「報告者」欄には、新住所(新社名)を記載し、余白に変更日と旧住所(旧社名)を記入してください。
- Q3 4種類の産業廃棄物を破砕していますが、「その2」には3種類しか記入できません。どのように記入するのですか。
- A3 「その2」をコピーし、2枚に分けて記入してください。 例えば、1枚目に「廃プラスチック類」、「金属くず」、「がれき類」の3種類を、2枚目には「紙 くず」を記入してください。
- Q4 廃プラスチック類、金属くずを破砕し、残さ物の処分方法がそれぞれ「売却」と「二次中間処理」になるため4種類の記入をしたいのですが、「その2」には3箇所しか記入欄がありません。 どのように記入するのですか。
- A4 「その2」をコピーし、2枚に分けて記入してください。 2枚目には、1枚目に記入した内容の重複記入がないように注意してください。(「処分方法」 欄は2枚目以降も記入してください。)
- Q5 中間処理後すべて再生・売却しています。「その2」の「発生した残さ物の種類と処分方法」 欄は記載しなくてよいですか。
- A5 中間処理後の量を廃棄物の種類ごとに「発生した残さ物の種類と処分方法」欄に記入してください。処分方法コードは「再生・売却・その他」の"①"を記入してください。 (処分方法コードは、「その2」処分方法コード記入欄の下及び、4ページの記入例参照)
- Q6 自社の廃棄物を処分した自社処理分は、実績に含まれますか。
- A6 自社処理分は報告対象外です。全て自社処理の場合は「実績なし」で報告してください。
- Q7 中間処理後の残さ物についてのマニフェスト(二次マニフェスト)も実績報告するのですか。
- A 7 報告対象外です。
- Q8 電子マニフェスト分も報告をするのですか。
- A8 報告が必要です。電子マニフェストと紙マニフェストの両方をまとめて集計し、記入してくだ さい。
- Q9 報告書に受付印を押印したものを返却してほしいのですが、可能ですか。
- A9 窓口に報告書を2部持参した場合に限り、受付印を押印します。郵送の場合は、控えの返却は 行いません。
- Q10 報告書を提出後に誤りに気づきました。どうすればよいですか。
- A10 余白に朱書きで「再提出」と記載し、訂正後の報告書と訂正前の報告書(マーカー等で訂正箇 所がわかるように記載したもの)を提出してください。

産業廃棄物の体積から重量への換算係数(参考値)

- ・ 実績報告書に記載する廃棄物の重量は、原則として実際に測った値を使用してください。
- ・ 重量が測れない場合は、表-1の係数を用いて重量を計算してください。
- 自社で換算係数を算出できる場合は、その係数を使用して重量を計算してください。
- ・ 表-1の換算係数は、「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」を作成する際の目安として、平成 18 年12月に国が公表したものです。従来の実績報告書で使われていた係数とは異なります。
- ・ 表-2 の混合廃棄物の組成割合は、平成 19 年 3 月(社)建築業協会「建築系混合廃棄物の組成及 び原単位調査報告書」を基に算出したものです。

[計算式] **重量(t) = 容量(m³) × 換算係数**

重量(t) = 重量(kg)÷ 1,000

重量(t) = (容積(l)÷1,000)×換算係数

表-1 産業廃棄物の体積から重量への換算係数(平成18年12月に国が公表した参考値)

産業廃棄物の種類		換算係数 (t/m ³)	産業廃棄物の種類		換算係数 (t/m ³)
1	燃え殻	1. 14	13	金属くず	1. 13
2	汚泥	1. 10	14	ガラスくず、コンクリートくず (工作物の新築、改築又は除去 に伴って生じたものを除く。)及 び陶磁器くず	1.00
3	廃油	0.90			
4	廃酸	1. 25			
5	廃アルカリ	1. 13	15	鉱さい	1. 93
6	廃プラスチック	0.35		がれき類(工作物の新築、改築又	1. 48
7	紙くず	0.30	16	は除去に伴って生じたコンクリー ト破片その他これに類する不要	
8	木くず	0. 55		物)	
9	繊維くず	0. 12	17	動物のふん尿	1.00
	動植物性残さ(食料品製造業、 医薬品製造業又は香料製造業に おいて原料として使用した動物	1. 00	18	動物の死体	1.00
10			19	ばいじん	1. 26
	又は植物に係る固形状の不要物)		20	産業廃棄物を処分するために処理 したものであって、前各号に掲げ	1.00
	動物系固形不要物(とさつし、 又は解体した獣畜及び食鳥処理	1.00		る産業廃棄物に該当しないもの	
11	大は解体した獣歯及び良馬処理 した食鳥に係る固形状の不要 物)		21	感染性産業廃棄物	0.30
12	ゴムくず	0. 52	22	廃石綿等	0.30

表-2 混合廃棄物の組成割合(重量比)

	産業廃棄物の種類	組成割合 (%)	産業廃棄物の種類		組成割合 (%)
1	がれき類	33	4	金属くず	11
2	ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	12	5	木くず	15
			6	紙くず	14
3	廃プラスチック類	14	7	繊維くず	1

例)「混合廃棄物 0.5t」の場合。

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず \Rightarrow 0.5 t \times 0.12 (12%) = 0.06 t (がれき類: 0.165t、廃プラスチック類: 0.07t、金属くず: 0.055t、木くず: 0.075t、

紙くず:0.07t、繊維くず:0.005t)